

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2011年〔平成23年〕

8月14日〔日〕

先負

◎神奈川新聞社 24819号
 〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
 総合受付 045-227-1111 E1 毎月3100円・1部120円

大好きです 私たちの街



川崎信用金庫

<http://www.kawashin.co.jp/>

手のうた

故に置く盆供の米や秋山郷

和村 幸子

秋山郷は新井と長野の県境を流れる中津川上流にある秘境。冬は雪が降りにより閉ざされる。「北越雪語」の著者、江戸中期の鈴木敏之が「秋山記行」を書いたことで仙境として有名になった。現在は道路開発も進み生活様式も変化している。が、なお注目すべきは貧困者の民俗である。作者もこの地方の出身のゆえ、故(やま)に慣れた筆まで近づけないと言はれ、見当をつけて祖先霊へ持参の米をまくという。「故(やま)に慣れた人」 村上護(作家・評論家)

きょうの天気 雨の降海上でのち雨の風や強く、晴れ時々曇り 最小湿度60%、海上最大風速10七ノ横雲

地区	時	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
横浜	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
横浜西	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
鎌倉	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
相模原	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
厚木	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
小田原	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴

専門の訓練校開設

東京都板橋区

「事務職で働きたい」 知的・精神障害者を支援

知的・精神障害者も企業で事務職として働きたい。そんな思いに応え、職業訓練から就労までサポートする専門ビジネススクールが今春、東京都板橋区に開校した。18歳から40歳まで十数人の受講生が学んでおり、「全国のエトセルになれ

ば」と意気込んでいる。スクール名は「フェステイナレンテ」。ラテン語で「ゆっくりに進む」という意味だ。知的障害の娘を持つ佐藤信子社長が中心となり、出資者を集めて設立。東京都指定の就労移行支援事業所のため、無料または低料金で受講できる。朝礼に始まり、午前はビジネスマナーが中心。午後はパソコン教室が3コマ。受講生はグループヒスなからオフィス勤務と変わらない服装で、テキストなども普通の職業訓練校と同じ。連うのは、受講生のレベルに応じて、マンツーマンできめ細かくコーチする場面が多いとのこと。受講生の男性(19)は「事務の仕事がやりたいので、パソコンの使い方を教わりたかった。仕事があるなら何でもやります」。やはり受講生の女性(18)は「就職したい気持ちが一層と強くなった」と話す。



パソコン訓練は開校という

東京都板橋区のフェステイナレンテ

「夢だった息子の就職がなかったのはいろいろな人のおかげ、それを抱返ししたい」。副島久美子さん(60)は障害者の長男(20)を育てた経験を生かし、指導員を務める。「障害者でも」できるというところをアピールしたい」と話す。11歳の白閉症の娘がいるパソコンズ優美子さん(30)は「せびやりたいと思った」と、パソコン講師の資格を生かし訓練を担うとしている。

また、知的・精神障害者の雇用はなかなか広がっていないのも現実だ。施設長の高原浩さん(43)は「ハローワークと連携して就労先の開拓を始めたい。就職後も定着支援を行う『フォロー』していきたい」と話す。開設には内閣府や日本政策金融公庫などの公的支援が不可欠だったが、「ノウハウさえ分かれば地方でも事業化は可能だと思う」と佐藤社長。「政令指定都市ぐわいの人口規模があれば需要はある。細かい注意点なども蓄積しており、今後は同じような施設の設立支援もやりたい」と考えている。

フェステイナレンテの連絡先は ☎03(3566)1000。